

## 様式第 1 号

## 会 議 録

会議の名称		平成 30 年度第 1 回つくば市未来構想等審議会		
開催日時		平成 30 年 8 月 30 日 開会 14:00 閉会 16:00		
開催場所		つくば市役所 消防庁舎多目的ホール		
事務局 (担当課)		政策イノベーション部企画経営課		
出席者	委員	塩田尚、神谷大蔵、吉富耕治、高谷榮司、小玉喜三郎、宇津野茂樹、山海嘉之、大澤義明、生田目美紀、大島慎子、森博徳、後藤真紀、中井聖、伊藤達也、坂本義治、北本政行、永井悦子、中嶋修、西美佳、林亮、山口圭一、横田直巳、飯野哲雄、毛塚幹人、門脇厚司 計 25 名		
	その他			
	事務局	大越企画経営課長、課員 5 名、次長・企画監等		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	5 名
議題		(1) 未来構想等の位置づけと改定 (2) 未来構想等策定の方法と工程 (3) 市民ワークショップの実施 (4) 職員ワーキングチームの活動状況 (5) つくば市が今後力を入れるべき分野《意見交換》		
会議次第	【辞令交付式】			
	1	開式		
	2	辞令交付		
	3	閉式		
	【第 1 回つくば市未来構想等審議会】			
	1	開会		
	2	会長及び副会長選出		
	3	諮問		
	4	市長挨拶		
	5	議事		
		(1) 未来構想等の位置づけと改定		
		(2) 未来構想等策定の方法と工程		
		(3) 市民ワークショップの実施		
		(4) 職員ワーキングチームの活動状況		
		(5) つくば市が今後力を入れるべき分野《意見交換》		
		(6) その他		
	6	閉会		

## 【辞令交付式】

### 1 開式

政策イノベーション部次長：只今よりつくば市未来構想等審議会の辞令交付式を開式いたします。

### 2 辞令交付

次長：辞令交付に当たり、つくば市未来構想等審議会委員の就任を御承諾くださいました皆様を御紹介いたします。名簿順で御紹介させていただきますので、御了承ください。

(名簿読み上げ)

以上、30名でございます。

続きまして、人事発令通知書を交付いたします。大変申し訳ございませんが、お時間の都合上、代表者一名の方に公布させていただきます。未来構想にちなみ、最も未来のある方ということで、当審議会委員最年少である市民代表の横田様に交付させていただきたいと思っております。御準備のほどお願いいたします。

(市長、横田委員 起立)

(市長：人事発令通知)

次長：他の委員の皆様には、既にお手元に配布させていただいております。よろしく願いいたします。

### 3 閉式

次長：以上をもちまして、つくば市未来構想等審議会辞令交付式を閉式いたします。

## 【第1回つくば市未来構想等審議会】

### 1 開会

次長：続きまして、第1回つくば市未来構想等審議会を開会いたします。会長が決定されるまで、私が進行を務めさせていただきます。皆様のお手元の会議次第に基づき、進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

### 2 会長及び副会長選出

次長：初めに、本審議会の会長、副会長を選出していただきたいと思います。つくば市未来構想等審議会条例第5条に、会長及び副会長は委員の互選によって定めると規定されています。どなたか御意見がございましたら、よろしくお願いいたします。

委員：事務局の方から、どなたかを御提案いただくことがよろしいかと思えますがいかがでしょうか。

次長：只今、事務局から提案することについて御意見をいただきましたが、事務局から御提案を申し上げてよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

事務局：それでは、事務局から御提案申し上げます。

会長ですが、都市計画が御専門で、行政に係る各種審議会や会議等の委員を務められ、つくば市のまちづくりにも造詣の深い筑波大学の澤委員を推薦させていただきます。

また、副会長ですが、永らくつくば市議会議員を務めていらっしゃる、つくば市の情勢に熟知されているつくば市議会議長の塩田委員を推薦させていただきます。

次長：ただいま会長を会長に推薦する提案がございましたが、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

次に、副会長ですが、塩田委員を推薦する提案がございましたが、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

委員の皆様の互選により、会長が会長に、塩田委員が副会長に選出されました。

この場で恐縮ですが、大澤会長、御挨拶をお願いいたします。

(大澤会長の挨拶)

続きまして、塩田副会長、御挨拶をお願いいたします。

(塩田副会長の挨拶)

### 3 諮問

次長：ありがとうございました。続きまして、つくば市長からつくば市未来構想等審議会へ諮問をいたします。お手元に諮問書の写しをお配りしておりますので合わせて御確認ください。

市長：（市長から大澤会長に諮問）

### 4 市長挨拶

次長：続きまして、五十嵐市長から御挨拶を申し上げます。

市長：改めましてこんにちは。皆様本当にお忙しいところ、委員を引き受けていただきましてありがとうございました。今回、つくば市未来構想等審議会は総勢 30 名の委員の方に御参画いただき、公的機関や学識経験者、各種団体、さらに市民公募委員の方もいらっしゃる、まさにつくばの「知」がこの部屋に集っていると感じております。とても力強く心強く思っております。今、塩田議長からもありましたが、私共、この計画には非常に力を入れております。

私も就任以来 1 年半ちょっと経ちましたが、課題はもちろん山のようにあります。その度にもがき苦しみながら判断をしていくわけですが、これは恐らく私だけではなく、職員も同じように悩みや課題を感じながら日々仕事をしているわけです。今回定めていく未来構想というのは大きな未来像を提示していくわけですので、そういった時に羅針盤として「この未来構想を我々は目指していくんだ、そこに向かって進んでいけば大丈夫だ」というものをぜひ描いていただける、判断のベースとなるものを作っていただけることを期待しております。

諮問書の中身の読み上げは省略させていただきましたが、今つくば市が一番力を入れているのは、諮問書に書きます通り、持続可能なまちをどうやって作っていくか、そこにどうテクノロジーを捉えていくかということが非常に大きなテーマでして、今年2月に日本の自治体で初めてつくば市は「持続可能都市ヴィジョン」というものを発表しました。6月には、経済・社会・環境の3側面で持続可能な都市を作っていくポテンシャルが高いまちとして「SDGs 未来都市」というものに国から選定されて今活動をしております。SDGsでは2030年までにこういう社会を実現しようというもので、どの会合にいくときでもSDGsの17のゴールについて話をさせていただいており、またかとも言われるのですが、それでも一生懸命SDGsを目指しているということを少しでも言語化し、皆さんの生活に直結する話であり、本当にこれこそがまちの基盤であるという話をし続けて少しずつご理解を頂いていっているのではないかと思います。

今日SDGsの話もいくらか出てくると思うのですが、大澤会長のお話にもありましたようにこれを我々は日本をリードする自治体にしたい。研究学園地区などもあり、まさに日本が世界を牽引されているような方もこの場所にいらっしゃって、私が目指しているヴィジョンは「世界の明日が見えるまち」であります。少子高齢化を始めとして世界中の自治体がどこも同じような課題を抱えている。でもどの自治体も解決できていないわけです。これは日本がまさに少子高齢化のフロントランナーであるからであり、だからこそつくばでその解決のヒントを示すことができれば世界中のモデルになり世界中に広げることができるわけです。それが、私が掲げている「世界の明日が見えるまち」というヴィジョンであります。そのヴィジョンを今回の未来構想というのはまさに直結するものになりますし、我々がここで作っていただいたものをベースにこれから市政運営を行っていくという非常に大事なものになりますので、あまり時間をかけられないかもしれませんが、予定調和は一切ありませんので、本当のところを議論していただければありがたいと思っています。

これで退席するのは政治家みたいで嫌なのですが、議事録は必ず読ませていただいて、その議事録で気になった部分については、全てコメントをして担当者と話をしやりとりをします。特別職も3名この会議にも出席しますので、私の思いは共有されていますので、ぜひご了承いただければと思います。本当にどんなものができてくるのか非常に楽しみにしていますので、どうかよろしくをお願いします。

次長：ありがとうございました。五十嵐市長でございますが、他の公務が重な

っておりましてここで退席となります。

(市長退席)

次長：ここで、大澤会長、塩田副会長におかれましては、お席の移動をお願いします。

## 5 議事

次長：議事に入る前に、つくば市未来構想等審議会条例について事務局から説明してください。

事務局：審議会につきまして、お手元の基礎資料1及び2に沿って概要を御説明いたします。基礎資料1は、つくば市未来構想等審議会条例です。審議会の役割は第2条に規定されております。当審議会は、市長の諮問に応じまして、つくば市未来構想及び戦略プランについて、必要な調査及び審議を行い、市長に答申する役割でございます。

本審議会委員は、30人以内とされ、市の議会議員、地方行政機関及び公共的団体の役員、学識経験者、市民、市の副市長及び教育庁で構成されます。前回の審議会でも市民委員の公募を行っていましたが、条例上の位置づけが学識経験者となっておりますので、本年6月に条例を改正し、市民の項目を追加しております。

次に、第6条では、審議会は必要に応じ会長が招集することになっております。会長は会議の議長となります。審議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことはできません。

最後に、本審議会の庶務につきましては、第10条に規定されているとおり、政策イノベーション部において庶務することになっております。

以上でございます。

次長：ただいまの説明にもありましたが、本審議会の庶務は政策イノベーション部が処理するとなっております。

ここで、事務局を紹介させていただきます。

(事務局照会)

それでは議事に入りますが、ここからはつくば市未来構想等審議会条例第6条第2項に基づき、大澤会長に議長をお願いいたします。

会長：議事に入る前に、本審議会の公開について皆様にお諮りします。会議の公開・非公開について、事務局から説明してください。

事務局：本審議会の公開・非公開について説明します。お手元の参考資料1及び2を御参照ください。

つくば市では、審議会などの会議について、公開に関する条例を定めています。

まずは参考資料1を御覧ください。第2条の「定義」について、本審議会は、(1)の「地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき設置された附属機関の会議」に該当します。

次に第3条の「会議公開の原則」ですが、附属機関の会議及び懇談会等は、これを公開することとなっており、第4条の「非公開とすることができる会議」では、いずれかの条件に該当するときは全部または一部を非公開とすることができるものとしております。

次に参考資料2を御覧ください。

会議の非公開に関する条件ですが、つくば市情報公開条例第5条では、情報公開をしないことができる項目を設けています。一例を申し上げますと、個人に関する情報であって、特定の個人が識別される場合や不利益を与える情報は非公開となります。

会議が公開の場合であっても、委員から非公開の申し出があった場合は、その都度審議の上、決定することができます。以上です。

会長：未来構想等は、市政の方向性などを示す市の最上位計画であり、審議を公開することで審議状況や内容を広報するとともに、市政運営の透明性の向上に寄与できると思います。

したがって、本審議会は原則公開したいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議無しの声)

会長：それでは、本審議会は原則として公開します。

傍聴者の方がいらっしゃいましたら、引き続き会議を傍聴することができます。

#### 【議事 (1) 未来構想等の位置づけと改定方針】

会長：それでは、議事に入ります。議事(1) 未来構想等の位置づけと改定方針について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料1-1、1-2、1-3を用いて未来構想等の位置づけと改定方針について概要を説明。）

会長：ただ今のご説明についてご意見ございますでしょうか。

委員：ご説明どうもありがとうございました。未来を描いてそこからバックキャストさせるというのは良いと思うのですが、肝心のこの未来というところをどういう風に力を入れて皆で共有していくかということをしていかないといけないと思うので、一つのイメージにしていく必要があります、それをもとに色んな方の意見が入り込んで形になっていくと思います。そこで、提案なのですが、そういうのをご準備、わたしも含めて一旦ご説明させていただいて、こんなのはどうでしょうかと見ていただきながらこれも加えたらどうでしょうかというやり方をしていくのも一つの方法と思いました。

会長：ご指摘いただいた話で、バックキャストというイメージを一番共有していかなければならないと思います。他いかがでしょうか。

事務局：ご意見ありがとうございます。この未来像をつくっていくにあたり、素案という形で若手職員のワーキングチームで色んな案を作っていく、それを第2回・第3回の審議会でお示ししたいと考えています。それに対するご意見について色々いただきたいと思っています。その中で先生からご提案があったようにこういう考え方もあるということもお示ししていただければというところです。

委員：ありがとうございます。そういうものは最初に案ができてしまって、そしてその度に色々加えていこうとした場合に、例えば骨組みから変えていくというのは大変難しいですし、私のような控えめな方だとなかなか発言しづらいところもあり、ただその時に、材料としてこういう風なものはどうでしょうかという話もあると思うので、そういうことをもし分科会をやってくださるのであれば、そこに、こういうのはどうですかとインプットさせていただきながらもんでいただいて、また皆さんで議論するというのを段階で積み上げながらやっていくのがよろしいかと思います。

実は私共の仕事は政府と一緒に色んなことを構想していく、それからソサエティ 5.0などをキーワードにいろんな構想を作り出すのが仕事ですので、そういったものはつくば市に素材が集まっておりますので、そこは他の地域より、もっと具体的なイメージを作りやすくなっていると思います



ので、そこをフル活用していただければと思います。

会長：ありがとうございます。また改めてご相談させていただければと思います。

事務局：また改めてご意見をうかがえればと思いますのでよろしくお願ひします。

会長：私個人としては今のご意見を大切だと思っていますし、その他の市民も非常にハイレベルな、皆さんの思っている未来をお示しいただく機会については、議題（2）でお話し下さい。事務局と調整しながら進めていきたいと思っています。よろしいでしょうか。

### 【議事(2) 未来構想等策定の方法と工程】

### 【議事(3) 市民ワークショップの実施】

会長：続きまして、議事(2) 未来構想等策定の方法と工程及び議事(3) 市民ワークショップの実施について、合わせて事務局から御説明ください。

事務局：（資料2-1、2-2、3を用いて未来構想等策定の方法と工程について、市民ワークショップの実施概要を説明。）

会長：ありがとうございます。今、資料の25ページからについて、その中でアンケート及びワークショップのお話をご説明いただきました。ご質問などいかがでしょうか

委員：27ページの意識調査のところなのですが、2年ごとに市民意識調査をやって平成29年の結果が今ここに載っていると思うのですが、それとは別に今回の審議のためにアンケートをとるということでしょうか。内容が少し違うようなのでそういう風に考えてよろしいでしょうか。

事務局：今ご指摘ありましたように、平成29年度に定期的なものとして開催しておりまして、そちらを比較する内容のものもございまして、それとはまた別に未来像をお伺いするような内容についても設問として設けたいと思っています。

委員：その案もここで少し見えるということですが、実施が10月になっていますよね。次の会議は10月23日ということなのですが、こういった方法で行われるのですが。

事務局：時期については、実際の配布回収が11月にまたがると考えています。

10月から11月という形で。こちら審議会でご確認いただいたものをという形で進めていきたいと考えております。

会長：よろしいでしょうか。

委員：市民ワークショップが開催されるということなのですが、審議会の委員はワークショップへの参加を控えてほしいという要望はあるのでしょうか。

事務局：特に参加してはいけないとか参加してほしいということはありませんので、もしお時間が許すのであれば、ぜひご参加いただければと思いますが、他の方にも出てくださいというわけではございません。

会長：他はよろしいでしょうか。

委員：アンケート調査のことですが、対象について、市民にアンケート調査を出すのはわかりますが、高校生に限定するというのはどういうことですか。大学生ということもありますが、市民は18歳以上であれば大学生も含まれるということですか。高校生だと、どこまで2030年のスパンで自分の将来を考えているかというのは極めて不安要素があると思っています。高校2年生ということですから、10数年後ですよ。当面高校生としては次のステップ、大学に入るのか入らないのか、入るとしたらどの地域に入るのかとか、そういうことがせいぜいかなど。就職する時にどんなことを重点的に考えますかなんてことを質問しても、ほとんど信用に足らないデータになってしまうのかどうか、極めて心配ですね。最近の高校生はほとんど将来のことを考えていない。高校2年生だったら1年後2年後のことしか考えていないのではないかと思いますので高校生だけで良いのかという質問をしました。

事務局：今ご指摘いただいたことについては重々承知の所ですが、今回の市民アンケートと高校生アンケートをさせていただいている理由がいくつかございまして、その1つは先ほど委員がおっしゃいましたように市民の方が18歳以上で大学生相当の年齢も市民に含まれているということと、これまで未来構想や前身の第3次総合計画等を策定する際にも高校生アンケートという形で2年生の方にアンケートを行っておりますので、それと比較できるというメリットがありまして、高校生の方にアンケートをお伺いしているということが2点。

大学生の方にも是非お聞きしたいと考えてはいるのですが、なかなか方法が難しいというところがあります。高校生は毎日学校に来まして学校を通してアンケートを配って回収ができるのですが、大学生になりますと最初の内は毎日行くと思うのですが、段々行かなくなり、配って回収というのが現実

的に難しいという状況になっております。以前試みたこともあったのですが、ほとんど回収できなかったという経緯がございまして、今回このような形で大学生は18歳以上という形で市民アンケートに含める形で意見を収集したいと考えているところです。

委員：色々な考え方があると思いますが、大学では紙のアンケートは致しません。筑波大学もそうだと思いますが、全部WEBでやりまして、1年生は一生懸命回答してくるけど、段々あまり回答しないかもしれません。大学がいくつかありますから、質問を送っていただいて一斉にメールでと言えば、多分大学生は協力できると思いますので一応お知らせをしておきます。

委員：びっくりしたのは、認識の違いではあるかと思いますが、大学生が大学にきていないという話。まず必修科目がありますので、授業が終わるとWEBで授業のアンケート調査をするのが必須です。そういう時代になっておりまして、カリキュラムについての細やかなチェックを組織が全部やっていきます。試験の日にセッティングすると、年何回、ほぼほぼそのどの学年をターゲットにするかによりまして、1年生から4年生までのどれかをターゲットにすればサンプルは得られると思います。

事務局：以前WEBアンケートというものを検討しまして、大学の学生課に相談に行ったことがあるのですが、外部からのアンケートを送付することは難しいということで断られてしまった経緯があります。今回委員である大学の先生にお力添えいただければ実現は可能かと思えます。また改めてご相談させていただければと思います。

毛塚副市長：ご意見ありがとうございました。前回の未来構想を作った時の流れで、高校生アンケートを提案させていただいたのですが、委員の皆様からの御意見を踏まえまして、次回までに大学生のアンケートが実現可能かどうか検討したいと思います。大学生も我々の中でも検討していたのですが、例えば筑波大学の学生ですと、3割ほどしか住民票をつくば市に移していないということがありました。しかし、つくば市の人口の中で大学生が実際に居住している実態は非常に大きな存在ですので、データの整理を考えております。次回までに回答させていただきたいと思えますのでよろしく申し上げます。

委員：筑波大学に通っている3年生です。1年生の時は必修単位があるので、絶対に学校に来る日あると思います。また、WEBの方でも生活課の方でアンケートをまわしていることもあります。以前学生課の方で学生に回すアンケートをメールで流していたことがあり、やることは可能だと思うので、ぜひ

交渉してみてください。

**【議事(4)職員ワーキングチームの活動状況】**

**【議事(5)つくば市が今後力を入れるべき分野】**

会長：続きまして、議事(4)職員ワーキングチームの活動状況について説明の後、その後意見交換を行います。事務局から御説明ください。

事務局：(資料4を用いて職員ワーキングチームの活動状況について概要を説明。)

会長：ありがとうございました。職員ワーキングチームの活動状況について、またはワークショップのお話などについてご意見いただきたいと思います。また、フォアキャスト、バックキャストについて、十分分かりやすい説明だったと思います。この内容から今までの議事を踏まえながら自由にご発言していただきたいと思います。今ご説明いただいた、つくば市の特性・施策に関するもの、バックキャストに関するもの、あるいは生活者としての目線での御意見あるいは、庁内の進め方について何でもお願いします。

今日は初回ですので、意見を発散する意味でもご自由にご発言いただければと思います。第2回以降は多少協力いただきますが、時間の関係上16時に終わりたいので1人3分ぐらいのお時間でお願いします。

委員：なぜバックキャストが重要で、色んな意識の方々含めてこれを洗い出すということはとても良いことだと思います。38ページのスライド2に、何かを収集しながらそのペースにステップ1・ステップ2・ステップ3という風にまとめられていますが、恐らくこうやっていっても先ほどのバックキャストと軸が合っていないのかという感じがしました。スライド2だけを見ると、情報収集しながらその延長線というフォアキャストのようなものが見えていたので、その部分と皆さんがディスカッションしているバックキャストと中身が合うように、中身を深めても良いかなと思いました。それから、バックキャストのところでは10年後の出口のイメージが必要だと思います。これは市の政策そのものであったり、このまちに生きる人の未来そのものなので、この部分をどのように構成していくのが重要で、それがはっきりすれば現在をつなげたところで何をすればいいのかという考えが見えてくるので、それを解決するというものですから。抽出という表現ではないのかもしれないと思いました。

会長：ただいまの意見について、何かご意見ありますか。

委員：前は確か5年前にこの構想づくりに参加した記憶がありまして、思い出しながらまた今回の違いなど考えさせていただいています。今もご意見がありましたが、共有する未来像を作り上げる、それから時間の未来ですが、その間に何をすべきかということですが、その場合、やはりどういう要因があるのかということと、未来像に対して理学的にいうと因子分析みたいなことをやることになると思います。あるいは先ほどの高校生アンケートについても色んなところ聞かれると思うのですが、それを積み上げていっても未来像は出てこないと思うのです。もちろん色んな意見が含まれるわけですが、まとまった形はなかなかできない。今日の資料の20ページのスライド10のところですが、つくば市の未来は現在、これは時間軸ですが、どういう要因から成り立っているのかという3次元モデルを意味しているのだろうと思うのですが、この次元がいいのかどうか疑問があると思います。市民の思いに対して現状がどのくらい達成されるか、期待にどれだけ応えられるのかというやり方になっているわけです。

一方で、SDGsもそうですが、世界の中で世の中の流れはどのような方向に動いているのかに対して現状のつくばはこれくらいだけど、強い面もあるけどまだまだ厳しい面がこれくらいあるということだと思います。市の希望もこれは経済面も含めて、人口もそうですがという意味で言うと、物理的にもどれくらいの伸びしろがあるけれど、現状はどれくらいなのかという、こういう制度から成り立っていく未来像だと思います。そう言うようなあらかじめそれに見合う資料やデータを揃えてアンケートを行ったり、議論をしないと収束していかないと思います。一つのことだけでやると市民の思いだけでやると、もちろんそれはあるわけですが、それだけではないわけなので、私なりにいうと違う面があるのですが。市民の生活のPと、それから経済のP、環境と社会、平和というP（People、Profit、Planet）、この3つのPの軸が大体これに似ているものであります。これに賛成論で考えて未来像・現状等、そういう分析を頭に入れながらご議論いただくとよろしいのかなと思います。

会長：おっしゃる通り、コントロールできる部分とコントロールできない部分がありますが、収束しながら議論をする必要があると思います。

会長：話が戻ってしまうと思うのですが、高校生アンケートの意見、私も同じような心配をしまして、高校生に何の知識もなくアンケートをとると、期待した回答が得られないと私も思っていますので、市役所の方の負担が多くなるかもしれませんが、1時間から45分の時間をもらって、市の職員の

方が今のつくば市の現状と課題を将来の施策が進んでいるというレクチャーをしたあとに、アンケートを実施していき、回収するという手間をかければもう少し高校生からも関心が高まって有効な回答が得られるのではないかと思いますので、ご負担が大きくなるかもしれませんがご提案をします。

事務局：これについては1,350人全員を対象にしておりますので、やり方も含めて実施可能かどうか検討させていただきます。ご意見ありがとうございます。

会長：未来を示して議論するのもおもしろいと思います。他どうでしょうか。

委員：今の意見なのですが、予備知識も必要かもしれませんが、質問のやり方によってはしっかりと出てくることもあるかと思いますが、その辺の設計は非常に興味深くできることをとりあげて、あまり誘導的にならないようにというのは必要かと思います。

それと全然関係ない運営のことなのですが、その職員のワーキングチームもすでにやっていらっしゃるということで、庁内の策定委員会の資料5にも載っているのですが、私たちここの委員としてこういったものに傍聴できるのですか。なかなか庁内のことで参加したことがないのですが、この場だけで報告を受けるより、職員の方が自由に発言なさっている感じを、全部はできませんがどこかで拾えたらいいなと思いますがいかがでしょうか。

事務局：現状、公開はしていないのですが、未来像の提案について検討したいと思います。ご意見ありがとうございます。

毛塚副市長：これからそういった市民の方に公開する場を設けたいと思いますので是非ご来場いただければと思います。今後どのタイミングでというのは検討させていただきます。よろしくお願いします。

委員：内容のことではなく運営面に関してですが、たぶんこの審議会が終わって何年か経つと、検証なさると思うのですが、その時に重要になってくるのはこれから作る資料は全部西暦で合わせていただいた方がよろしいのではないかと思います。本日いただきました資料について、平成32年3月と書いてありますが、多分これは存在していないわけでございまして、出したものはこれでよろしいのですが、こういう資料は全部西暦でやっていただいた方がわかりやすいのではないかと思いますのでぜひよろしくお願いします。

委員：先ほどの件ですが、厚労省の偉い方に説明しにいたり勉強会に呼ばれたりするのですが、今ワーキングチームでやっていらっしゃる時に先ほどのようなご意見があった時に、毎回傍聴するという話も非常にやりにくいと思

いますが、時々部会のところ、皆さんやっているところですが、色んなご意見のところをインプットする会というのをお時間設けていただくことも必要かと。限られた人数で色々考えていくと煮詰まってくると思いますから、そういう場を日常的に設けて自分達が色んなものを取り込みながら発想を豊かにしていくという取り組みを、今回構想を練っていくには、こういう場で関わっている方々を中心にそういうこともあってもいいのかなと思いましたが、それで付け加えさせていただきます。

委員：公募で委員としてきたのですが、その応募した経緯の話をさせていただきたいと思います。この会議はつくばの未来を考えるという大事なもののなのですが、地域に住んでいる一般住民としてそこまで意識しているかということの一つ言いたいことです。私はつくばをいかに一体化してこの後何十年間も一つにまとまっていく地域としていかなければならないという意識で思っている人間です。アンケートの言葉で言うと旧8町村に新しい2地区を加えて8地区にアンケートするという風に分けてちゃんと意識して書いているように、つくば市は一体感はないなと思います。それをいかに10年20年先に合併後にいかに一体化して市民として動いていくかということ私は重要であると、今日言おうと思ってここに来ています。

もう一つは持続可能と言うことで内容が出ていますが、つくば市がいかに持続して新しい世代が住み続けられるまちになるかというのが、私は次のポイントだと思っています。一時的に新しく住宅ができ住民が住む。それでいっぱいになって後30年後にはそれが老人の地区になってしまうということが考えられますので、そうではなく、地区を段階的に開発していき、次の世代、孫の世代も、全員が住むとは思いませんが、住み続けられる地域開発を考えていかないといけないと。一時期だけある地区だけが発展して周りに取り残されるという言葉を使っていいかわかりませんが、そういうことはつくば市であってはならないと、周辺地区に住んでいる人間として思います。そういうことを考えていかないと未来構想と冊子でこれだけのことをいったところで、それを市民がどう思って生きていくのかと私は思います。どちらかというとは私は現実派です。まず地区をおいて、その地区から10年後20年後という風に考えていけたらなと思っています。2つの視点です。アンケート一つ例にとれば、8地区、2,000人対象とありますが、もう少し多くやるべきかと。でない意識が、回収率4割を目指していると800人の意見だけでは弱いのではないかと考えております。地区についても8で割って250人くらいずつ、もう少し数多く、できるだけ多くの人間にアンケートをとっていただきたいと思っています。先ほど高校生の問題がありましたが、私はどちらかというとは中学生にやるのがいいと思っています。地域に住んでいる人間が

この先どうするのだと考えなければならないと私は思います。

事務局：先ほどからいくつかご意見をいただいておりますので。中学生というお話もありましたが、中学生・高校生・大学生へのアンケートについて、どういう形で実施できるかももう一度考えたいと思います。ご意見ありがとうございます。

委員：とても素晴らしいご指摘で、このまちに生まれそしてこのまちをどういう風にしていくかという人たちになっていかないと、言ってみれば筑波大学は色んなところから来ていますから、色んなところに行ってしまうのですが、卒業生までがつくばで暮らしていきたいと思うくらいのところ、それから生まれてここで育っていく人たちがこのつくばをどういう風にしていきたいのかとか、ずっとそこが継続しながら発展していく。例えば、20ページの10の図を見ると「人口、財政」と書いてありますが、先ほどの報告ですと、2035年をピークに25万人からどんどん下がる。情報としてはそうですが、それがどんどん発展していくというところには定着して行って、またお年を召した人も若い人もいつも一緒に暮らせるまちづくり、実はこれは重要です。

例をはさみますと、帯広市の十勝では、感心したこととして、役場の人たちが十勝ワインを一生懸命改良して、ワインが作れるよう一生懸命改良して、最北端でワインができるようにしてそれをブランドにしてまちで売っていて、どこの店に入っても地域のワインを押し出していたり、あるいは地域連携の中で「明治」と組んでチーズを出したりしています。またまち全体でまちの人たちが観光のことをやっている。まちが一体化してまちを作り上げているのをすごく感じまして、それを見た瞬間につくばでワインができないかなと考えるわけですが、色んな地域がつくばにはありますので都市部だけではなく、地域全体の色んなものを連動させてものを見ていくところも、つくばというハイテクなまちみたいなことだけになってしまいますが、まち全体と関わり合って動く部分をぜひこういったものを取り込みながら、地域の農村地域が全部支えていくような、極端だけど世界にないような農村地域の作り方もあるかもしれないので、そういうところもセットで見えていただければと思いました。

会長：領域的な連携も大事だと思います。発言していない方発言をお願いします。

委員：未来像についてコメントをさせていただきたいと思います。つくば市の未来像を考える時に、やはりつくば市の最大のポテンシャルである研究機関、あるいは大学にいらっしゃる世界最先端の知的人材の皆様方とそのつく



ば市全体の産業振興、あるいはまちの賑わいといった分野に徹底的に活用するということを考えるべきではないかと思っています。現在我が国、日本は人口減少社会が本格化していますが、日本に限らず世界的に見ても産業競争力、イノベーションというのが一つのキーワードとなっているかと思いません。イノベーションのキーワードの一つとしては、あるところによると既存の知と別の知の組合せにあると言われていています。つくば市というのは世界最先端の知が、我が国では最も集積している都市になります。世界的に見ても指折りの話だと思っています。こういったものをつくば市内に活かしていく、産業振興に活かしていく。例えばつくば市の地場産業というのは場合によっては融合することによって飛躍的に生産性が上がる可能性があると思っています。

また、つくば市の地場産業に限らずですが、新しく産業を起用したいという方が世界から集まってくる可能性があるかと思っています。大げさかもしれませんが、アメリカのシリコンバレーに匹敵するようなイノベーション都市になる、それだけのポテンシャルはあると私は思っています。バックキャストिंगということでございますので、未来像というものを持って、逆にいいますと、研究機関に非常に有効な方々に塀の外に出させていただいて、色々な地場産業、新しい研究者をあるいは起業家を日本から、世界から、このつくばに呼び起こす。それによってまちの賑わいも出てきますし、産業振興も働いて税収も増える、魅力あるまちづくりになっていきます。そういう好循環をもたらすきっかけにする未来像を一つ考えてはどうかと思っています。

会長：ありがとうございます。つくばのイノベーションというのは仰るとおり、意識しながら考えていく必要があるように思えます。

委員：今研究所にずっといる研究者の方々の成果はなかなか表に出てこないと言われているので、それをつくば市の各研究機関から研究者の方を引っ張り出すという役割の事業プロデューサーに選ばれてやっています。これは本当にやりにくくて、自分の研究を中心に地球が回っていると思っている先生方がたくさんいらっしゃるので、そこを何とか言いくるめながら、段々外に出てきて、ベンチャーを作っていただけのような状況になって参りました。これは続けて参ります。そしてイノベーションというのをキーワードにして、このまちそのものがどんどん色んな分野、電子系からAIもあり農業も含めたそうしたイノベーションの部分、農業や交通機関もそうですが、そういったものを含めたこのまちに来ると新しい取り組みができるということで、世界から人が集まる。その時にはファウンディングが重要で、資金援助できるような組織、ファンドを作りました。このまちにいろいろなものが集まれる

ような場所づくりをちゃんとすべきだと思います。

あと、教育のところ、若いうちからそういうチャレンジをしてもらい担ってもらおうという取り組み。ここについては教育行政については市が行うことになりますので、そこもやっていきたいということと、たまたま筑波大学の近くにありますので、社会で働いている方々、あるいは働く方法を変えたい方々もいっしょになってこれからカンパニーキャンパス、つまり、会社組織そういったところにも人材育成の機能をちゃんと持たせるくらいのことをしながら、必要な行政とは別に、トップの市を一つ作ってもいいのかなど。色々提案していますが、ご指摘いただいたのは、つくば市の特徴を活かすのはコアになってくるのではないかと。ぜひ未来構想の中にイノベーションというキーワードを前面に出していただきたいと思います。

委員：先ほどからつくば市に一体的な発展が必要だとか、イノベーションの活用とおっしゃっていて、大事な話だと思うのですが、それはたぶん目指す未来像に対する手段のところの話だと思います。先に話をしないといけないのは、2030年の未来像をきちんと議論をする、私はイメージしながら今日出て参りました。ここからは私の理想ですが、2030年という今から12年先です。つくば市で12年前というつくばエクスプレスが開業したのが2005年の秋ですね。この10年間でつくば市は距離的に東京に近づいた、つくば市的にも東京に大分近づいてきた10年間だと思います。たぶんこれから2030年においては、ITの話や車の自動化といわれている中で、東京に近づくことを目指す10年ではなくて東京と違うところを磨いていってほしい10年にしてほしいなと思います。例えば都市と自然の調和とキャッチフレーズ的につくばは語られますが、どこまで本当にそうなのか。スプロール化しているんじゃないか、住み始めると疑問に思うことがあります。

あとは車社会になってくるとなかなか人と会う場が少なくなりますから、きちんと住民と住民、生産者と消費者の顔を合わせる。そういった東京にないものを磨く10年間。そういう2030年像を描いてほしいと思います。後は議事進行の話ですが、2030年像をもっと話してほしいなと思います。

会長：まだ発言されていない委員さん、お願いします。

委員：私が所属するのは子育て支援の団体なのですが、つくばで子育てをしてきてすごくよかったと、子育てそのものが人生経験として自分の人生を豊かにしてくれると実感してきたわけですが、今つくばで子育てというと、待機児童のことがすごくクローズアップされがちで、その言葉が最優先みたいなことになってしまっているのですが、是非この未来構想の中では、「子はかすがい」という言葉がありますが、子育てってその人が子供を通じて地域に

つながっていく貴重なチャンスだと思いますので、お母さんだけでなく、お父さんもそうだしその周辺の子育てに関わる人をもっと増やして、つくばで子育てを楽しめるようなイメージをしていただけたらなと思います。

その中で、まち・ひと・しごとの有識者会議にも出席させていただいたのですが、その中で歯がゆく思っていたのが、つくばの未来のことが出てくる時に合計特殊出生率の目標とする数値として「2.0」という数字がなかなか出てこない。市長が仰っていたように、「世界の明日が見えるまち」ということを考えると、つくばでそのような数値を掲げられなくて、日本の中のどこで「2.0」という数値を押し出せるのだろうと思います。数字というのは冷たい印象もありますが、ぜひ2人、3人、私は3人子育てしていますが、本当に子育てを通じて人生が豊かになれるような、もちろんそういう選択をする人たちばかりではないのですが、そうではない人たちもまち全体で子育てを暖かく包み込むようなそういったまちづくりをビジョンとして掲げられたらいいなと思っています。

もう1点なのですが、今日の配付資料、とても見やすく良かったです。実は私、視野障害を持っておりまして、こういった審議会の資料はいつも試されているような気分が悲しくなることが多いのですが、今日の資料は大変読みやすかったです。一つ気になっているのが、市民アンケートです。アンケートの回収率が前は40%を目指すということですが、答えない、答えられない6割の意見はどうすればすくい上げられるのかということ考えた時に、アンケートの様式として、例えば明朝のフォントをユニバーサルデザインのフォントにしてみるだとか、用紙のサイズを大きくしてみるとか、そういったハンデを持っている方でも答えやすいようなアンケートを作って回収率の向上を目指していただければと思います。

会長：その他、お願いします。

委員：2点ございまして、一つは話題になっている高校生アンケート、私自身はやはり18歳より上の大学生とまではいかななくても専門学生でも何でもいいのですが、18歳以上の子が選挙権を持っているわけですから、社会にある程度興味を持ってもらうと言うこともあり、高校生に限らずそれより上の世代のアンケートをとることも必要だと考えております。

もう一つは市の方で色々なワークショップ等を開く時に、外国人を入れるという発想はないだろうかということです。どういうことかということ、本学は、8割は茨城県民ですが、全員がつくば市の住民ではございません。留学生も沢山おりますが、この頃はつくば市からそういうご依頼はないのですが、近隣や色々な市から、産業が立ちゆかなくなる中、外国人労働者が必要

になってきているので外国人留学生にただ日本語を教えて卒業させるだけではなくビジネスマネジメントの知識を与えて地域でしっかり労働力として、労働力といっても作業ではなく、マネジメントができるという意味だと思いますが、そういう風に育成してくれないかというリクエストが確実に増えています。もし現実なのであれば、2030年というのは日本人だけでなくもっと共生社会になっている可能性があると考えておりますので、その辺の視点を入れていただけるといいのではないかと思います。

会長：確かにつくば市は、市内に外国人が住むスパンは短いので、外国人にワークショップに参加してもらうこともよいと思います。まだ発言されていない委員さん、お願いします。

委員：先ほどアンケートのことに話が戻ってきたので少しだけお話ししたいことがございます。特別支援学校の方にもアンケートをなさるといいますので、そうすると単純に紙で配って答えられるということではないのでそこをご注意いただきたいということと、ぜひその特別支援学校の方々のご意見も組み入れてほしいと思っています。何故かという、2030年これからどうなっていくか、世界的に多様性を認めて生きていくしかなくなっていくと思います。例えば中心住民と周辺住民ということもあれば、高齢者もいれば若い世代もいる。障害がある方もない方もいれば、外国の方も地元の方もおられるということで、つくば市は特にそういう多様性を認めないと未来がないと思っているということをおっしゃっていただきたいです。

あとは、未来像を持ったらそれに対して何か解決策をしていかなければならないときに、場合によっては条例を作るという気構えというか、そういうものを持って進めていってはどうかと。例えば小さな点で言いますと、つくば市では女性研究者を育てることができるような仕組みを作るとか、女性の場合は最近の研究者は任期が3年ということになってくるのですが、その3年の中で産休・育休について、産休は取れるのですが、育休はとれない。奇跡のようなタイミングで子供を設けなければ育休を取れない。自分の任期が3年しかないということで女性の研究者は生きていかなければならないんですね。そういうところで女性研究者を育てるピンポイントの取り組みを行っていくとか、そういうことも小さな意見ですが、含めて多様性が広がっていくような仕組みを作っていただくような気構えで未来構想を語っていきたいと思っています。

会長：ありがとうございました。非常に大事だと思いますので参考にしていきたいと思います。まだ発言されていない委員さん、お願いします。

委員：特別支援学校の生徒にもというお話が出てきてありがたいと思っています。

す。アンケートに答えられない生徒がかなり多いと思います。アンケートを代わりに保護者が回答させていただくと障がい者の気持ちや親のアンケートの回収ができると思うので、細かく答えをいただけるとありがたいと思います。持続可能都市ヴィジョンの参考資料3の13ページを見ていただきたいのですが、「誰一人取り残さない」、「人間一人ひとりの安全が守られ、地域の隅々まで福祉が行き渡り、つくばに集うすべての人が自分らしく生き、幸せが溢れるまち」ということで、つくば市が福祉都市宣言をしている都市ですので、障がい者が住みやすいまちは健常者にとってもお年寄りにとっても住みやすいまちなので、誰にでも住みやすいまちということは障がい者にとっても住みやすいまちになります。障がい者のこともお忘れいただきたくないと思いましたのでよろしくお願いします。

委員：お話を伺っていて、この審議会でもっとつくば市の2030年の姿を考えるべきだとありましたが、私もそう考えております。今日の話の中でアンケートであったり、方法については色々あったのですが、会議の最後の方向性として、一つの構想を作り上げるというのを皆さんで再確認した方がいいのかなと思いました。その方法は色々あると思うのですが、一つ目につくば市さんで考えている未来構想について意見するという方法と、この審議会の皆さんで新しく意見を挙げていくという方法があるかと思いますが、せっかく皆さんひとりひとりがこういうまちにしたいという想いを持っていると思っていますので、それをゼロから挙げてみるのもおもしろいのではないかなと思っています。

もう一つ、大学生という立場からご意見をさせていただくと、是非よそ者と思わないでまちに飛び込んでいっていいと思います。私は社会工学部都市計画専攻というところに所属しているのですが、まちについてすごく考えている学生も沢山いますし、我々に限らず筑波大学にはたくさん学生がいますし、筑波大学はまちに土着した大学だと思っていますので、是非市の方からもプッシュしていただければ学生もやる気が出ると思いますのでぜひよろしくお願いします。以上です。

委員：色々ご意見をお聞きしまして、私も2030年の将来の未来像ということで、私個人の考えとしましては、先ほど出ましたつくば市が中心と周辺が一体的に発展して、安定的に定住促進ができるエネルギー溢れるまちということで未来像を掲げた場合、バックアップする戦略プランのような形で目標に向かって具体化して、それを検証する、そういったことを将来の形態として考えております。一つの提案としましては、中心市街地はご存じのように発展しておりますが、周辺とは格差があるということで、つくば市にとっては清掃業とか企業誘致。ほかの地域の工業団地と比べて遅れているような感じ

がしますので、周辺に、地場産業の育成でもいいですが、物流拠点や工業団地を設置してそれをエネルギーに変える。

あとは中心市街地活性化ということで、駐車場の問題です。それを具体的に位置づけて、できれば無料で駐められるよう、具体化して、そういった一体的な産業構造、そういったものを具体的に検証するような、目標に向かってそういうシステムが大事だと考えております。以上です。

委員：農業に携わるもので発言がずれるかもしれませんが、取りあえずつくばのこれからのまちづくりというのは、東京のまねをしない方がいいのではないかと思います。極端な話ですが、何年も前にデパートが撤退した。最初のつくばの未来予想ではデパートが撤退することなんて考えられなかったと思います。そういう現象というのはやっぱり東京はタクシーでも電車でも何でも家の前から乗れます。今後はつくば独自のまちづくりを考えたらどうかという提案をしたいと思います。

委員：非常に資料が見やすいとお褒めいただいた後なので言いにくいのですが、29 ページみただけませんか。グラフで表わしている。私は高齢者でございまして、アルファベットか数字か何かで対応できるようにしていただければありがたいと思いました。高齢者はそういう見方で資料を見ますので、すいませんがお願いします。数字とか合わせてデータを持っていらっしゃる時に、ここはきちんとしていらっしゃると思うけど、せっかく表示していただくのですから読んでいる人たちにすぐ判断していただければ親切で早いと思います。

委員：地域に密着というお話があったのですが、大学生が就職を控えている中で、つくば市で働くという選択肢も増やしてもいいのではないかと思います。先ほど委員が仰っていた色んな分野がある中で、大学生が色んな分野を活かせる場があると大学生としても学んでいる意味がありますし、受け入れる側もそれを活かせる人材が豊富にあると思いますので、そういう選択肢があってもいいのかなと思いました。以上です。

委員：私は横浜の方からつくばに引っ越してきました5年くらいですが、非常につくばは素晴らしいまちだと思っていて、このまちをもっと良くしたいと。色んな自治体からつくばはうらやましいと思われるようなそんなまちにするにはどうしたらいいのかお手伝いできればと思っています。非常に素晴らしいご意見をいただいた後で恐縮なのですが、私が3つテーマとして関心を持っているのは、1つ目は先進技術の民政化の部分。イノベーションの部分をもっと力を入れてほしい。市民としてみると一般公開の時くらいしか、先端技術に触れる機会がないので、先端技術と組合せによる新しい潜在

力が非常にあると思っているので、そういった未来ビジョンを出していければいいかなと思っています。

後は、元々こちらに引っ越してきたのは教育が素晴らしかったというのがあり、それをもっと良くしていきたいと。カリキュラムがどんどん新しくなっている中で、つくば初のカリキュラムが生まれてくるといいなと。

もう一つ、先ほどの子育てという話があったのですが、育てる前から、つくば市は産婦人科が少ないなと思っていて、生まれてくる前からつくば市の一員になっているといいなと思っています。そういうところも話題として取り上げながら皆さんとビジョンを作り上げていけたらいいなと思っています。よろしくお願いします。

会長：まだ発言されていない委員さん、お願いします。

委員：色々意見が出たところなのですが、最後にアンケートにもう一つだけ付け足しをさせていただきたいと思います。まず先ほどから色々話が出ていますが、2030年といいますと、高齢者そして後期高齢者の方々が、例えば周辺地区、筑波地区・荃崎地区・谷田部地区の一部は50%を超えてくるという時代になってきます。アンケートもそういった高齢者・後期高齢者の方々もなるべく答えていただけるように、そしてそういうアイデアをこれからいかすためにも、先ほどから出ている子育て、障がい者、そういったところのユニバーサルデザインを用いていただいて、アンケートを広めて、展開していただければ。地域はさまざまなイノベーションを使って最先端に、つくばの周辺地区をより一つにして、暮らしやすい住み続けたいまちということにしていきたいと考えていますので、高齢者・後期高齢者の方々の存在というのも、2030年は団塊の世代の皆さんが80歳を超えてくるという非常に大事な時代を迎えます。そういったところもアンケートに入れながらご検討いただければと思います。

会長：ありがとうございます。一応予定の時間は過ぎましたが、よろしいでしょうか。これくらいで意見交換を終わりにしたいと思います。本日出た御意見については、今後つくば市の現状と課題を整理する際の材料として、事務局に取りまとめていただきます。

#### 【議事(6)その他】

会長：最後に議事(6)その他として、今年度の審議会のスケジュールをお願いいたします。

事務局：資料5を御覧ください。平成30年度の審議会につきまして、本日を含めて5回程度開催する予定です。

第2回は10月23日14時から、第3回は12月3日14時から、第4回は1月30日14時から、第5回は3月1日14時から、となっておりますが、現時点での予定ですので、開催が近づきましたら改めて正式な開催通知をお送りいたします。

今後のスケジュールについては以上です。

会長：ありがとうございました。これまでの説明について御質問・御意見がございましたらお願いいたします。

会長：無いようですので、以上で終了したいと思います。今日、最後の議論いただきましたご提案、つくばの未来に関するご提案をいただきました。世界を見ながら将来を見据えることがつくば市のミッションだと思います。今後4回審議会が開催されますので、またご協力いただきたいと思っております。これで全ての議事を終了いたします。最後事務局にお返しします。

次長：会長及び皆様におかれましては、長時間にわたり御議論いただきまして誠にありがとうございました。

以上をもちまして、本日の第1回つくば市未来構想等審議会を閉会いたします。皆様、お疲れさまでした。

閉会（午後4時00分終了）